

健康ガイド

詳しいことは保健センター（☎4300）へおたずねください。

母子検診指導

受付時間：午後1時～2時

内容	とき	対象者	会場
幼児 1歳6か月児	9月16日	56年3月生まれ	保健センター
3歳児	17日	54年8月生まれ	
乳幼児 （結核予防接種を含む）	6～7か月児	14日	57年2月生まれ
	3～4か月児 ツベルクリン注射	22日	57年5月生まれ
	ツ反判定 B・C・G	24日	22日にツ反注射した子

安産教室

午後

とき	対象者	会場
9月13日	妊娠初期の人	保健センター
20日	妊娠中期の人	
26日	妊娠後期の人	

麻疹予防接種

受付時間

□対象者 51年4月2日から56年2月28日までに生まれた子（今までに、はしかにかかった子及びはしかの予防注射を受けた子は除く）

対象地区	接種日	会場	
新飯田（全域）	9月14日	地域生活センター	
庄瀬（全域）	14日		
茨曾根（全域）	16日		
小林（戸頭、田中を除く）	16日		
白井（西笠巻、引越、下赤洪を含む、古川を除く）	17日		
大郷（下赤洪、上・中・下笠巻を除く）	17日		
鷺巻（西笠巻・引越を除く、上・中・下笠巻を含む）	20日		
根岸（全域）	20日		
白根（諏訪木～中央通り以南） 戸頭、田中を含む	21日		保健センター
白根（五六の町以北～保坂） 古川を含む	22日		産業厚生会館

□注意 当日は、問診票に必要事項を記入し、押印して母子手帳と一緒に持ちください。からだの具合が悪いときは、かかりつけの医師に相談してください。

献血にご協力ください

移動献血車「ゆうあい号」が、次の日程でやってきます。
□9月20日 午前9時30分から正午までと午後1時から3時まで 亀田製菓（和泉工業団地）



わが家のアイドル

田部裕美ちゃん（二歳八か月）
和明さん・恵美子さんの長女（上鷺の木）



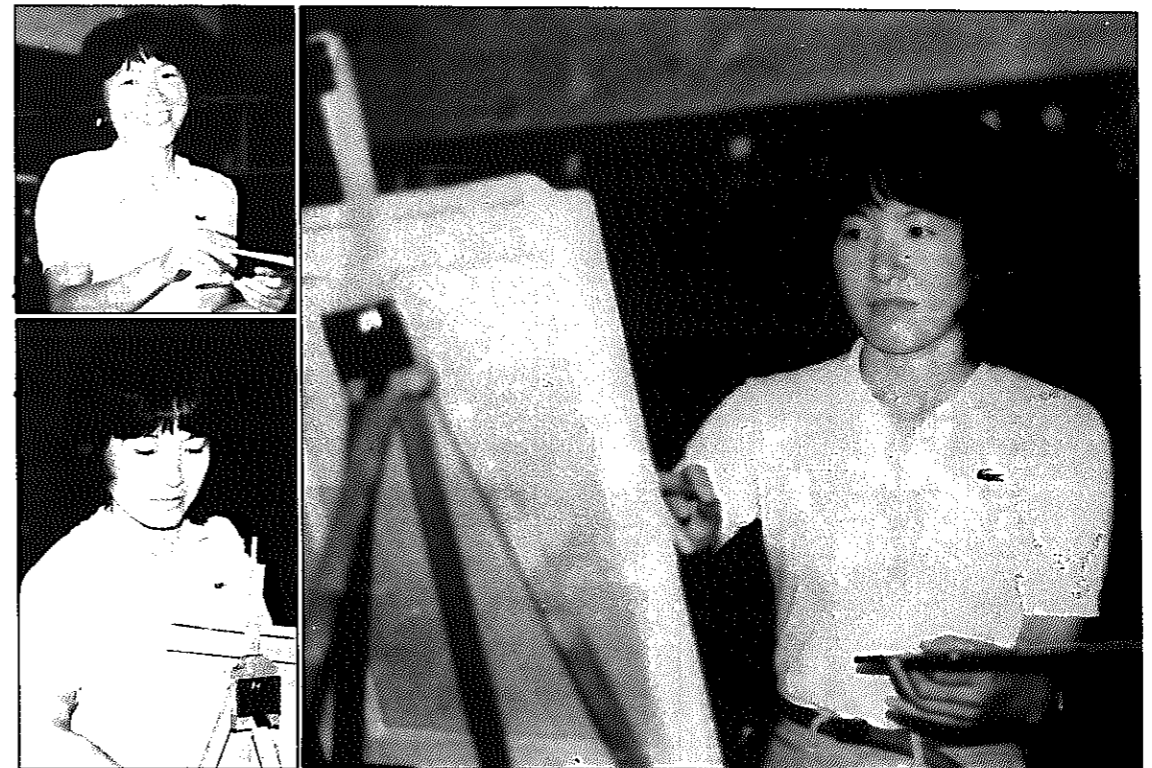
子供のあせも

汗をかいたら こまめに清潔な冷たいタオルでふきとるように



まだまだ、あせもが得意な季節です。皮膚の弱い赤ちゃんなどは、とくに気をつけてやりましょう。
あせもが、あちこちにたくさんできると、むし暑さの上に皮膚呼吸できず、かきむしりや、大変うっとうしく、大人でもイライラするものです。とくに赤ちゃんには相当な苦痛となり、泣くとますます汗をかきますから、さらにあせもが増えるという結果を招きます。

予防としては、汗をかかないよう涼しくし、衣類は吸湿性のよいものを選び、薄着にし、汗をかいたらこまめに清潔な冷たいタオルでふきとるようにします。
あせもができてしまったら、シヤワーや風呂、行水などで汗をよく流し、そのあとベビーパウダーなど吸湿性のある粉をふって、治療はもちろん予防にも役立ちます。



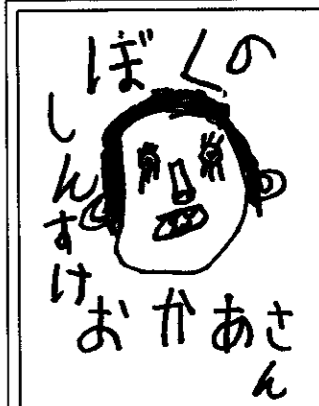
家事の合い間にキャンパスに向かう

長谷川 みち子さん（主婦・日の出町）

「子供のころから絵が好きでした。油絵は学生時代に少し描いた程度で、結婚後また始めたいと思っただけで、これまでは育児などでなかなか時間がとれなくて、子供たちもようやく手が放せるようになり、広報しろねで油絵講座が始まることを知って、早速申し込んだわけです。
月二回程度なら無理することなく、家族の理解も得られたので参加させていただけます」と、絵筆を走らせながら語る長谷川さん。
今年から始まった市民文化講座（短歌など四コース）のうち、油絵講座には二十一人の申し込みがあった小田 哲先生の指導のもと、なごやかな雰囲気で行われています。

「今は、花びんを前に静物画を描いていますが、できたら陽光の下で風景画もやってみたいですね。とっても楽しく、勉強になります。できれば来年も続けたいですね」と、意欲満々。
家事の合い間に、ママさんテニスクラブに入って、ラケットを握るといってはつらつ奥さんです。

母と子の会話



ぼくのおかあさん
真保信介ちゃん（5歳11か月・白根保育園） 美恵子さん（32歳・魚町）

物を大切にできる心

代用できない物で遊ぶ

今の子供は、昔の子供と違って鉛筆や消しゴムをなくしても平気、特に低学年の子供はその傾向が強いようです。これは、ある小学校の先生の言葉です。
確かに、今の子供たちには、もったいないと思う気持ちに欠けている一面もあるようです。持ち物を最後まで使わずに、飽きたとすぐに新しい物に替えてしまいます。
特に、学用品など学校で使うものについては、なくしてもまた買ってもらうせいか、大切に使うという気持ちが薄いようです。これがエスカレートして、なくしたら買ってもらう、だからなくしてしまおう！—こんな心理が働き、学校で落とし物が増えているとしたら恐ろしいことですね。

親にしてみれば、せめて学用品ぐらひは不自由させたくない、必要もないのに買い与えることは、子供に甘えやせいかねません。
子供には、物の大切さを教えるとともに、欲しがってもすぐには与えない、欲しがってもいない物を与えない—こうした配慮も時には必要です。
また、なくしてもすぐ同じ品物が手に入ることが、物を粗末にする原因とも考えられます。与える品物も、代わりがない、他の物で代用できないもの（親の手作り品など）を与えるなどして、物の大切さを理解させるのも一つの方法です。